

共同利用・共同研究成果発表会

日時：平成 24 年 3 月 1 日（木）13:00～17:40

平成 24 年 3 月 2 日（金）9:00～12:00

会場：高知大学 海洋コア総合研究センター 2 階セミナー室

海洋コア総合研究センターは、海洋コアの総合的な解析を通じ、地球環境変動の要因の解明や海洋底資源の基礎研究を行うことを目的として設立された共同利用研究施設です。
この成果発表会は、広く全国の皆様にご紹介するものです。

3 月 1 日（木）

13:00- 13:10 開会挨拶

13:10-14:40（座長：池原 実）

- O-01「31 億年前のクリバービル縞状鉄鉱層：DXCL2 掘削報告 1」清川 昌一（九州大）ほか
- O-02「西オーストラリア・クリバービル地域における年代測定」相原 悠平（九州大）ほか
- O-03「西オーストラリア・ビルバラにおける太古代中期の黒色頁岩層からみた海洋底環境：層序及び硫黄同位体の解析結果」坂本 亮（九州大）ほか
- O-04「南アフリカ・バーバートン帯・フィグツリー層群・マベベ層の層序と帯磁率と炭素同位体比」寺司 周平（九州大）ほか
- O-05「約 32 億年前の海洋における生体必須元素の生物地球化学循環」山口 耕生（東邦大、NASA）ほか
- O-06「岡山県西部のペルム紀緑色岩に産する微生物変質組織の岩石学および地球化学的研究」菅原 久誠（愛媛大）ほか

14:40-16:10 ポスター発表：概要紹介、引き続きコアタイム

- P-01「下北沖 C9001C コアの生物源オパールの変遷」堂満 華子（滋賀県立大）ほか
- P-02「薩摩硫黄島長浜湾の鉄に富む海水懸濁物質の希土類元素分析」養和 雄人（九州大）ほか
- P-03「約 32 億年前の黒色頁岩中の硫黄の存在形態別同位体分析から明らかにする海洋の硫黄循環」小林 友里（東邦大）ほか
- P-04「西オーストラリア・ビルバラ地域の約 32 億年前の陸上掘削黒色頁岩の地球化学：窒素の安定同位体組成から制約される海洋窒素循環」小林 大祐（東邦大）ほか
- P-05「顕微 FT-IR および顕微 Laser Raman 法による約 32 億年前の黒色頁岩中の有機物の起源の制約」中村 智博（東邦大）ほか
- P-06「南アフリカ・バーバートン帯の縞状鉄鉱層の地球化学：希土類元素組成から復元する約 32 億年前の海洋環境」矢作 智隆（東邦大）ほか
- P-07「東地中海クレタ島沖 KH06-04 航海で採取された海底塩湖堆積物の地球化学：リンの存在形態別分析から明らかにする過去 5～21 万年の酸化還元状態の変遷史」山口 友理恵（東邦大）ほか
- P-08「琵琶湖北湖第一湖盆、極表層堆積物の岩石磁気学的特性の地域差」石川 尚人（京大）
- P-09「ベーリング海パウワー海嶺基盤岩を掘削した IODP Hole U1342D コアの古地磁気学的研究」後関 友裕（茨城大）ほか
- P-10「岩石磁気からみた蛇紋岩の上昇過程—西南日本、四国東部を例として—」田川 晋（岡山大）ほか
- P-11「隕石中の磁性鉱物」鳥居 雅之（岡山理科大）ほか

16:10-17:40（座長：齋藤 有）

- O-07「デボン紀肉鱗類 *Eusthenopteron foodi* の硬組織の構造と化学組成」三島 弘幸（高知学園短期大）ほか
- O-08「IODP Site U1304 の浮遊性有孔虫化石に基づく亜極前線下に発達する珪藻軟泥の古海洋学的意義」山崎 誠（秋田大）ほか
- O-09「北太平洋およびベーリング海で採取された SO202-INOPEX コアに介在するテフラとその岩石学的特徴」青木 かおり（立正大）
- O-10「ベーリング海堆積物試料中の有孔虫酸素安定同位体比層序構築」岡崎 裕典（海洋研究開発機構、現：九州大）ほか
- O-11「ニュージーランド東方沖海底コア IODP Site U1352 の年代層序」上端 智幸（横浜国立大）ほか
- O-12「北大西洋海底掘削コア試料の古地磁気・岩石磁気—大陸氷床発達期（MIS100）の古環境変動—」大野 正夫（九州大）ほか

3 月 2 日（金）

9:00-10:15（座長：山本 裕二）

- O-13「マグネタイト多磁区粒子の低温磁化への圧力の影響」佐藤 雅彦（東京工業大）ほか
- O-14「四国海盆の回転角：大円解析法による掘削残留磁化の粘性残留磁化からの分離」小田 啓邦（産総研）
- O-15「IODP Exp. 330 (Louisville Seamount Trail) で採取された岩石試料の磁気測定結果」星 博幸（愛知教育大）
- O-16「房総半島定方位コアから復元した地磁気逆転トランジション」高崎 健太（神戸大）ほか
- O-17「有孔虫殻の酸素同位体比分析・微量元素分析から明らかにする過去 1.8 万年間の日本海の海洋環境」小平 智弘（富山大）ほか

10:30-11:45（座長：岡村 慶）

- O-18「オーストラリアボナバート湾における堆積物コア解析 - 古海水準変動記録の復元に向けて -」宮入 陽介（東京大）ほか
- O-19「音波探査からみた鹿児島県鬼界カルデラの形成過程」池上 郁彦（九州大）
- O-20「薩摩硫黄島長浜湾中の鉄沈殿作用と気象変化との関連性について」上芝 卓也（九州大）ほか
- O-21「九州南部始良カルデラ熱水循環系の水文地球化学的研究」石橋 純一郎（九州大）
- O-22「北海道利尻島に大気輸送された鉛の起源の変遷」河野 麻希子（名古屋大）ほか

11:50-12:00 閉会挨拶

*共同利用・共同研究は、独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の協力を得て実施されています。